

第2期山口県央連携都市圏域ビジョン



令和4年3月

I 連携中枢都市圏における広域連携の推進

1 山口県央連携都市圏ビジョン策定の趣旨

人口減少・少子高齢化が進行する中、本圏域における地域経済を持続可能なものとし、圏域住民の安心な暮らしを実現していくためには、一定規模の都市機能や生活機能を包括する広域的な圏域において、交流人口、産業、雇用の創出を重視した更なる連携強化を図ることが重要であり、人口減少に歯止めをかけると同時に、生活基盤、行政サービスの保持を図っていく必要があります。また、圏域の市町が、それぞれの地域が有する豊かな自然や歴史・伝統・文化、産業、人材などの個性を十分に発揮し、相互に連携や補完を図り、圏域全体としての更なる活力につなげていく取組を進めていく必要があります。

こうしたことから、本ビジョンにおいては、本圏域のこれまでの広域的な連携を踏まえ、交流人口や雇用を創出する取組などを総合的に進めることにより、将来にわたる経済成長を図り、個性と活力に満ちた圏域の形成につなげていくための中長期的な「圏域が目指す将来像」を示すと同時に、その実現に向けて圏域の市町が取り組む具体的な施策をとりまとめました。

2 連携中枢都市圏の名称及び構成する市町の名称

(1) 連携中枢都市圏の名称

山口県央連携都市圏域

(2) 連携中枢都市圏を構成する市町の名称

山口県 山口市(連携中枢都市)、宇部市(連携中枢都市)

萩市、防府市、美祢市、山陽小野田市

島根県 津和野町



3 計画期間

令和4年度(2022年度)から令和8年度(2026年度)までの5年間

Ⅱ 山口県央連携都市圏域の現状等

1 圏域市町の概要

○圏域の概要

山口県央連携都市圏域は、山口県の中央部に位置し、山口県山口市(連携中枢都市)・宇部市(連携中枢都市)・萩市・防府市・美祢市・山陽小野田市・島根県津和野町の6市1町で構成され、圏域面積は約3,111k㎡で山口県全体の約51%、人口は約60.6万人(令和2年国勢調査)で山口県全体の約45%を占めています。

本圏域の南部は瀬戸内海を、北部は日本海を臨み、中部から北部にかけては中国山地の美しい自然を有しています。また、圏域内には、山口県の陸の玄関であるJR新山口駅、空の玄関である山口宇部空港のほか、国の重要港湾である宇部港・三田尻中関港・小野田港があり、さらには、中国縦貫自動車道・山陽自動車道などの高速交通網もあり、県内の交通・物流の拠点としても重要な役割を担っています。

○山口市

山口市は、山口県のほぼ中央に位置し、南は瀬戸内海に面し、東は防府市、周南市、西は美祢市、宇部市、北は萩市、さらに、島根県津和野町、吉賀町に接しています。山口地域は椹野川が、徳地地域は佐波川が、盆地、南部の臨海平野を経て瀬戸内海に流れ込んでおり、阿東地域は阿武川が「名勝長門峡」を経て、萩市から日本海へと流れています。

気候は、市中・南部は瀬戸内海式気候のため温暖で雨が比較的少ないものの、北部は中国山地の南西端となっており、冬季は積雪などもあります。

また、広域交通網が東西南北に走り、県内の主要な都市に1時間以内で移動できるとともに、高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港といった高速交通網との接続の便もよく、広域交流の拠点としての優位性を有しています。

さらに、豊富な緑や清澄な水を有する自然に満ちた都市で、大内氏時代や明治維新関連の歴史や文化資源が今に残されており、湯田温泉などを含めて、観光地としての魅力も備えた都市となっています。

○宇部市

宇部市は、山口県の南西部に位置し、西は山陽小野田市、東は山口市、北は美祢市に接し、南は瀬戸内海に面しています。

気候は温暖かつ、雨が比較的少ない典型的な瀬戸内海式気候で、市中央部以北の丘陵地には豊かな自然があふれ、南は瀬戸内海に面し、山と海の幸にも恵まれています。

市街地に山口宇部空港と重要港湾宇部港を有し、山陽自動車道と山陽本線及び宇部線が市の東西を走り、陸・海・空の交通体系が充実しており、臨海部では、化学工業を中心とした瀬戸内有数の工業地帯を形成しています。

また、山口大学医学部や工学部などの理工系の高等教育機関や学術研究機関が集積しているとともに、医学部附属病院を始め多数の医療施設や介護施設が立地し、医療介護環境も充実しています。

世界かんがい施設遺産に登録された常盤湖を有する「ときわ公園」では、世界で最も歴史のある野外彫刻の国際コンクール「UBEビエンナーレ(現代日本彫刻展)」を開催しています。コンクールの受賞作品など、約百点の彫刻作品を常設展示している園内では、緑と花と彫刻に彩られた美しい景観を堪能できます。

○萩市

萩市は、山口県の北部に位置し、北は日本海に面し、東は島根県益田市、島根県津和野町、阿武町、南東部は山口市、西部は長門市、美祢市に接しています。

地形は、全体として東部の中国山地から北西部の日本海に向かう傾斜地で、南部市境界付近に標高700mを超える山々が連なっています。低地は少なく、阿武川河口部に形成された三角州にある市街地とその周辺地に見られ、丘陵地は、田万川地域から須佐地域にかけての臨海部に比較的なだらかに広がっています。また、日本海の沖合いには、大島、相島など六つの平らな火山島が浮かび、およそ45km先には見島があります。

気候は、沿岸部においては対馬海流の影響を受けて比較的温暖であり、中山間部においては盆地特有の気候で、変化に富んだ豊かな自然環境を有しています。

江戸時代には、三角州を中心に、毛利氏が治める萩(長州)藩の城下町として発展し、幕末には、吉田松陰など明治維新の原動力となった人材を数多く輩出しました。現在は、世界文化遺産に登録された産業遺産群や歴史的景観を数多く残す歴史文化都市となっています。また、平成30年9月には「萩ジオパーク」が日本ジオパークに認定され、歴史・文化遺産、自然を保存・活用したまちづくり、観光地づくりに取り組んでいます。

○防府市

防府市は、山口県のほぼ中央部に位置し、一級河川佐波川の下流に開けた県内最大の平野を持ち、瀬戸内海の美しい海岸線に面しています。東は周南市、北から西にかけては山口市と接し、南方海上の向島・佐波島と南東に浮かぶ野島も市域に属しています。また、古くから周防の国の国府として栄え、交通の要衝として発展した歴史のあるまちです。

気候は、夏は海上からのおだやかな風が吹き、冬はその風が中国山地でさえぎられる瀬戸内海特有の気候に恵まれています。

また、市内北部は、日本三天神の一つ防府天満宮の門前町として商業が発展し、南部は、毛利藩時代からの三白政策の一つ、製塩業が盛んでしたが、昭和35年の製塩業の廃止を契機に塩田跡地に企業誘致を進め、現在は、自動車関連産業を中心とした大規模工場が集積するなど、県内有数の製造品出荷額を誇る産業都市として発展を遂げています。

○美祢市

美祢市は、山口県西部の中央に位置しており、東は山口市、西は下関市、南は宇部市、山陽小野田市、北は長門市、萩市と接しています。北部の中国山地を源流とする厚東川、厚狭川は、市内を南流し、宇部市、山陽小野田市を経て、周防灘に注いでいます。

中山間地域にあるため、寒暖差はあるものの、年間平均気温は15.0℃と、年間を通じておおむね快適な気候となっています。

市内には、国道が3路線と地域高規格道路「小郡萩道路」が通っており、南部には中国自動車道にインターチェンジ及びジャンクションが3箇所設置され、車での利便性が高くなっています。また、日本最大級のカルスト台地「秋吉台」や、秋吉台の地下100mに広がる大鍾乳洞「秋芳洞」など豊かな自然環境や観光資源があり、市全域をエリアとするMine秋吉台ジオパークに、年間を通じて多くの観光客が訪れています。

明治以降に開発された大嶺炭鉱の無煙炭、石灰石の産出により工業都市として発展し、現在でも石灰石の産出において高い国内シェアを誇り、工業都市としても発展を図っています。

○山陽小野田市

山陽小野田市は、山口県の南西部に位置し、東は宇部市、西は下関市、北は美祢市と接し、南北に長く瀬戸内海側に開けた扇状の市域を持っています。市の中央部には北から厚狭川が、東部には北東から有帆川が、それぞれ南流して周防灘に注いでいます。

また、市内には山陽自動車道、山陽新幹線、隣接している宇部市には山口宇部空港があるなど、高速交通網の利便性が高い交通の要衝となっています。

気候は、年間を通じて温暖で、降水量の少ない典型的な瀬戸内式気候で、生活環境としても産業立地上も好条件を備えています。

また、明治維新後に日本初の民間セメント会社が創立され、市内には現在も「セメント町」、「硫酸町」、「火薬町」の町名が残っており、近年は、きららビーチ焼野海岸沿いにガラス工房がオープンし、全国レベルの現代ガラス展なども開催するなど、窯業・化学工業を中心とした工業都市として発展を遂げています。

○津和野町

島根県津和野町は、島根県の最西端に位置し、西は山口県萩市と山口市、北・東は島根県益田市、南は島根県吉賀町と接しており、国道9号、主要地方道萩津和野線やJR山口線などで結ばれています。

気候は、日本海沿岸と中国山地の内陸部両方の特性を備えており、冬期には積雪もあります。

町の中心部には、南東から北西にかけ、水質日本一を獲得した全国でも有数の清流高津川が流れており、自然豊かな中山間地域です。また、国指定史跡である津和野城跡、森鷗外旧宅や、流鏝馬の馬場がある鷲原八幡宮、銅山で栄えた旧堀氏庭園、国の重要文化財である鷲舞を始めとする伝統芸能など、多くの歴史文化財産と美しい町並みを有しており、城下町の一部が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されました。さらには、日本遺産の最初の18件の一つとして「津和野今昔 ～百景図を歩く～」が選定されるなど、歴史と自然と文化の薫るまちとして発展してきました。

5 都市機能の集積状況

(1) 観光・文化施設等

市町名	観光客数 (人)	主要観光地・文化施設等
山口市	3,040,552 内外国人観光客数 (8,599)	国宝瑠璃光寺五重塔、山口大神宮、洞春寺、八坂神社、今八幡宮、常栄寺雪舟庭、山口サビエル記念聖堂、龍福寺、豊栄神社・野田神社、古熊神社、萩藩主毛利家墓所、枕流亭、香山公園、旧山口藩庁門、十朋亭、山口市菜香亭、萩往還、井上公園、其中庵、山口県立美術館、山口県立山口博物館、山口情報芸術センター、山口市歴史民俗資料館、山口県政資料館、中原中也記念館、湯田温泉、狐の足あと、維新百年記念公園、山口きらら博記念公園、国立山口徳地青少年自然の家、重源の郷、長門峡、観光農園(りんご・なし・ぶどう)、十種ヶ峰、ゴルフ場
宇部市	1,099,698 内外国人観光客数 (2,760)	ときわ公園(ときわ動物園、ときわミュージアム、石炭記念館)、野外彫刻(市街地)、山口宇部空港、常盤湖、小野湖、霜降山、荒滝山、キワ・ラ・ビーチ、今富ダム公園、アクトビレッジおの、茶園、吉部の大岩郷、学びの森くすのき、渡辺翁記念会館、文化会館、ヒストリア宇部、片倉温泉、持世寺温泉、楠こもれびの郷、うべ新鮮市場 元気一番、産業観光施設、宗隣寺龍心庭、ゴルフ場
萩市	3,199,061 内外国人観光客数 (612)	萩・明倫学舎、有備館、萩博物館、松陰神社、萩反射炉、恵美須ヶ鼻造船所跡、大板山たたら製鉄遺跡、口羽家住宅、萩城跡指月公園、旧田中別邸、旧久保田家住宅、木戸孝允旧宅、青木周弼旧宅、渡辺嵩蔵旧宅、旧湯川家屋敷、桂太郎旧宅、伊藤博文別邸、玉木文之進旧宅、萩駅(自然と歴史展示館)、菊ヶ浜海水浴場、萩八景遊覧船、山口県立萩美術館・浦上記念館、萩往還、長門峡、笠山明神池、須佐ホルンフェルス、須佐歴史民俗資料館、須佐湾フィッシングパーク、須佐湾遊覧船、須佐湾エコロジーキャンプ場、ふれあいステーション須佐、須佐男命いか直売市、須佐大橋コミュニティ広場、龍の里やどみ、農産物加工販売所「つつじ」、萩往還夏木原交流施設、萩アクティビティパーク、阿武川歴史民俗資料館、阿武川河川公園、萩阿武川温泉(ふれあい会館)、田万川温泉「憩いの湯」、田万川キャンプ場・RVパーク、海水浴場(瀬越・湊)、観光農園(ぶどう・梨・柑橘)、萩石見カントリー倶楽部、景勝地(史跡・遊歩道・磯釣)、ネムの丘キャンプ場、MARKET623、萩むつみの恵、雲林寺、むつみ昆虫王国、ひまわりロード
防府市	1,861,637 内外国人観光客数 (4,295)	防府市まちの駅うめてらす、周防国一宮玉祖神社、防府天満宮、周防国分寺、旧毛利家本邸・毛利氏庭園・毛利博物館、東大寺別院阿弥陀寺、右田ヶ岳、大平山山頂公園、山頭火ふるさと館、山頭火生家跡、大楽寺、三田尻御茶屋旧構内英雲荘、三田尻御舟倉跡、三田尻塩田記念産業公園、防府市文化財郷土資料館、富海海水浴場、野島海水浴場キャンプ場、防府市公会堂、アスピラート、ソラール、防府市サイクリングターミナル、新築地町防災広場(メバル公園)、ゆうゆう広場(佐波川右岸河川敷多目的広場)、ゴルフ場、乗馬施設
美祿市	951,669 内外国人観光客数 (5,926)	秋吉台、秋芳洞、大正洞、景清洞、万倉の大岩郷、別府弁天池、別府養鱒場、秋芳白糸の滝、水神公園、秋吉台サファリランド、秋吉台グラウンドゴルフ場、秋吉台科学博物館、秋吉台エコ・ミュージアム、美祿市歴史民俗資料館、美祿市化石館、金麗社、長登銅山跡・長登銅山文化交流館、秋吉台国際芸術村、秋吉台家族旅行村、秋吉台オートキャンプ場、景清洞トロン温泉、秋芳の梨狩り、厚保くり園、美祿ブルーベリーガーデン、森の駅、ぼんぼこの里、ゴルフ場
山陽小野田市	739,034 内外国人観光客数 (1,866)	きららビーチ焼野、竜王山公園オートキャンプ場、きららガラス未来館、花の海、山陽オートレース場、富永豊ぶどう園、亀の甲農園、二井観光ぶどう園、江汐公園、若山公園、竜王山公園、寝太郎公園、ドライブインみちしお・天然温泉みちしお、浜五挺唐樋、旧小野田セメント製造株式会社堅窯、小野田セメント山手倶楽部、ゴルフ場
津和野町	945,066 ※外国人宿泊客 延べ数 (106)	旧堀氏庭園、旧畑迫病院、津和野城跡、城跡観光リフト、太鼓谷稲成神社、鷲原八幡宮、乙女峠マリア聖堂、森鷗外旧宅、西周旧居、永明寺、弥栄神社、津和野カトリック教会、亀井家墓所、千人塚、津和野大橋、安野光雅美術館、桑原史成写真美術館、森鷗外記念館、津和野町郷土館、津和野町日原歴史民俗資料館、津和野町日本遺産センター、日原天文台、藩校養老館
圏域合計	11,836,717 (24,164)	

資料:山口県「令和2年山口県観光客動態調査」、島根県「令和2年島根県観光動態調査」、各市町担当課調べ
※津和野町については、外国人宿泊客延べ数

【圏域の主な交通インフラ・ネットワークの状況】



Ⅲ 山口県央連携都市圏域の将来像

1 圏域が目指す将来像

(1) 圏域が目指す将来像

互いに個性と魅力を高め、交流や雇用が生まれ、
あらゆる地域に定住できる連携都市圏域
～「住んでよし・訪れてよし」の山口ゆめ回廊^(※)～

(※)山口ゆめ回廊…山口県央連携都市圏域の愛称

本圏域の各市町は、平成27年度に「まち・ひと・しごと創生法」に基づく総合戦略を策定し、令和42年(2060年)を見据えた長期的な人口の将来展望(人口長期ビジョン)を示すとともに、定住促進と少子化対策という地域社会の最重要課題に対して、都市間連携を図りながら、効果的な地方創生の取組を進めています

こうした中、本圏域では、各市町の総合戦略等を踏まえ、圏域全体の人口減少等に伴い地域課題等が本格的に顕在化することが想定される令和22年(2040年)を目標年度として、第1期ビジョンを策定しました。

この第1期ビジョンにおいては、各市町が有する豊かな自然、歴史、伝統、文化、産業、人材などの個性と魅力を磨き上げ、圏域内の「人・モノ・資金・情報」が圏域内で循環し、圏域外からの「人・モノ・資金・情報」を圏域内に呼び込むことが可能となるよう、互いの連携のもとで、更なる交流や雇用を創出していく取組を進め、地域経済を持続可能なものとする中で、圏域内のあらゆる地域に安心して住み続けられる、そして住んでみたいと思える価値ある圏域づくりを実現することとしました。

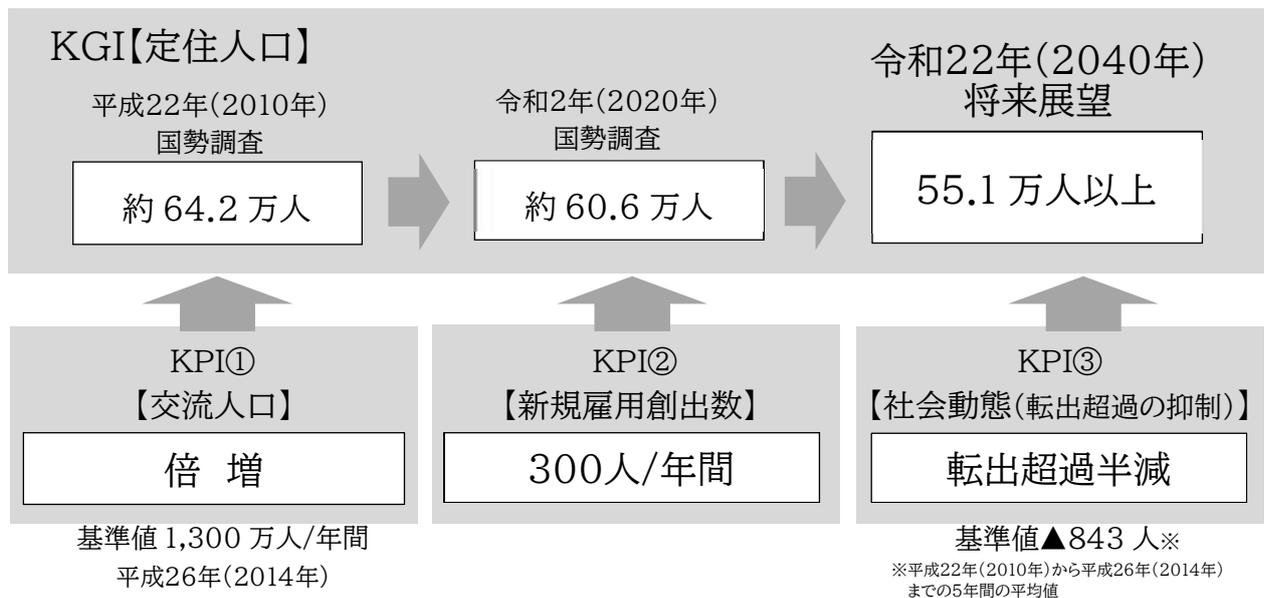
第2期山口県央連携都市圏域ビジョン(以下「第2期ビジョン」という。)においても、引き続き、こうした考え方のもとで圏域各市町の連携による地方創生の取組を進めると同時に、目指すべき将来像として、「互いに個性と魅力を高め、交流や雇用が生まれ、あらゆる地域に定住できる連携都市圏域～「住んでよし・訪れてよし」の山口ゆめ回廊～」を位置付けることとします。

(2)数値による将来展望

本ビジョンにおいては、圏域の「定住人口」をKGI(重要目標達成指標:Key Goal Indicator)とし、「交流人口」、「新規雇用創出数」、「社会動態(転出超過の抑制)」をKPI(重要業績評価指標:Key Performance Indicator)とします。

① 令和22年(2040年)における将来展望

第1期ビジョンでは、令和22年(2040年)における将来展望として、定住人口「55.1万人」、交流人口「倍増」、新規雇用創出数「300人/年間」、社会動態(転出超過の抑制)「転出超過半減」を将来展望として掲げました。第2期ビジョンにおいても、引き続き、この目標値を将来展望として位置付けます。



(3)第2期ビジョンにおけるメインテーマ・目標(数値)

① 第2期ビジョンにおけるメインテーマ

第1期ビジョンでは、観光、中小企業支援を始めとする分野において、広域連携の強みを生かした取組を開始するなど、「7市町の広域連携のスタート」をメインテーマとしてきました。第2期ビジョンでは、第1期ビジョンの取組を通じて深めてきた7市町のつながりを生かし、「新しい時代の流れを成長につなげる持続可能な圏域づくり」をメインテーマとして、コロナ禍の影響を受けている地域経済の維持・回復に向けた集中的な対策を講じながら、同時に、新たな人の流れを呼び込み、圏域の経済循環を図る取組や、質の高い豊かな暮らしの実現に向けた取組を本格的にスタートさせます。

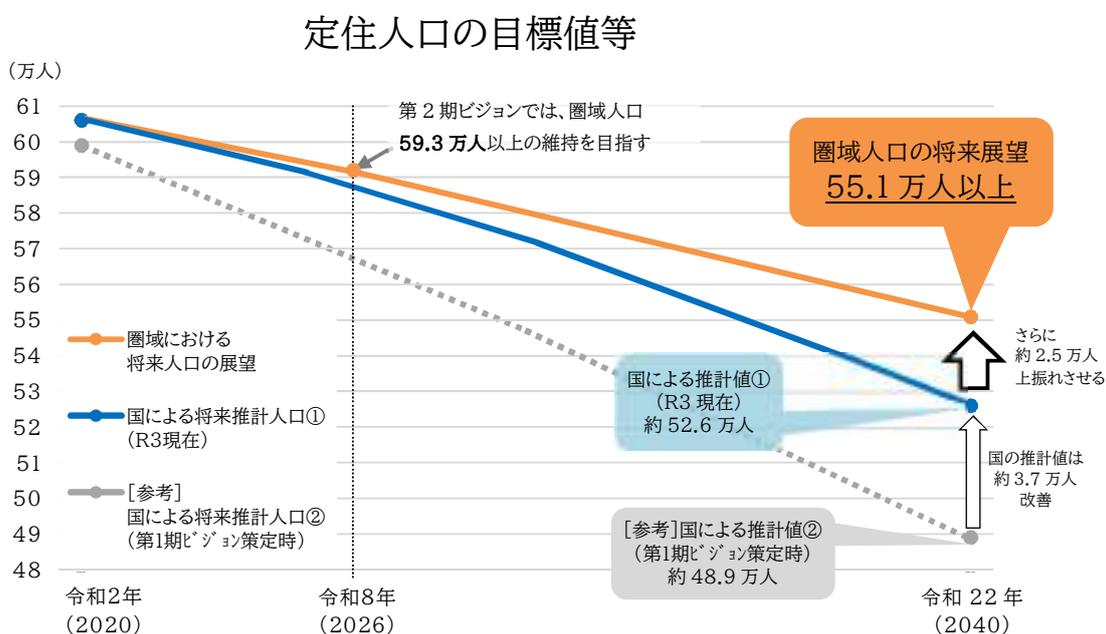
《各期のメインテーマ》



② 令和8年(2026年)における目標(数値)

【KGI:定住人口】

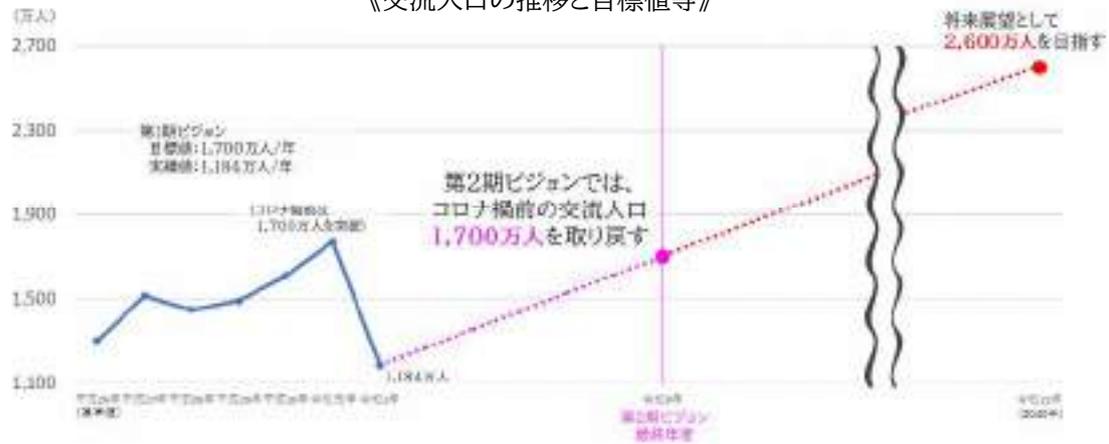
令和2年国勢調査において、圏域の定住人口は約60.6万人と、国による将来推計人口(令和2年:約59.9万人)を上回る結果となりました。引き続き、圏域で一体となった取組を効果的に展開することにより、こうした国の将来予測を上回る結果を維持し、令和22年(2040年)における将来展望約55.1万人の達成を図ります。令和2年の圏域人口から令和22年の将来展望達成に至る人口推移を推計し、各年の人口減少数を算出した上での中期目標として、第2期ビジョンでは、令和8年における定住人口「59.3万人」の維持を目指します。



【KPI①:交流人口】

「交流人口」については、まずは、第2期ビジョンの計画期間において、コロナ禍前の交流人口1,700万人を取り戻すことを目指します。

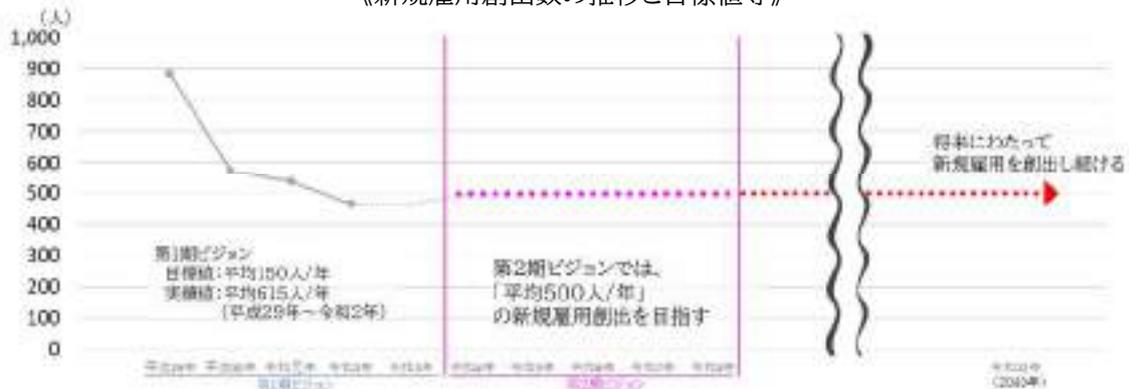
《交流人口の推移と目標値等》



【KPI②:新規雇用創出数】

「新規雇用創出数」については、第1期ビジョンにおける好調な実績を踏まえ、第2期ビジョンの計画期間中における年間平均で500人の新規雇用創出を目指します。

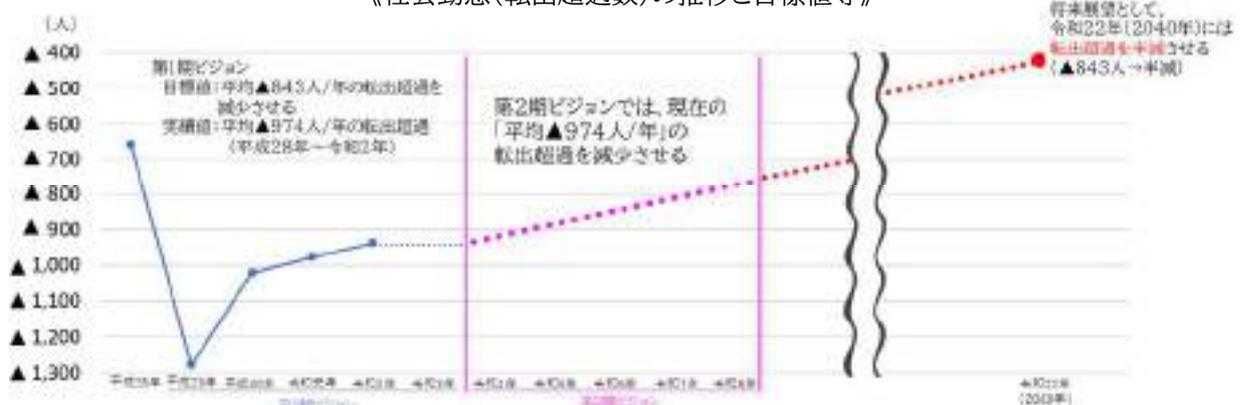
《新規雇用創出数の推移と目標値等》



【KPI③:社会動態(転出超過の抑制)】

「社会動態(転出超過の抑制)」については、依然として進む転出超過に何としても歯止めをかけ、令和22年の将来展望(転出超過数の半減)を達成するため、まずは、現在の年間平均974人の転出超過を減少させることを目指します。

《社会動態(転出超過数)の推移と目標値等》



≪令和8年(2026年)における目標(数値)一覧≫

【KGI】

目標達成指標	令和2年(2020年)	令和8年(2026年)
定住人口	約 60.6 万人	約 59.3 万人

【KPI】

基本目標	現状値 令和2年(2020年)	目標値 令和8年(2026年)
①交流人口	1,184万人/年間	1,700万人/年間
※参考 新山口駅乗車人員 山口宇部空港旅客輸送実績	165万4千人/年間 24万6千人/年間	現状値より増加
②新規雇用創出数	464人/年間	500人/年間
③社会動態(転出超過の抑制)	▲974人/年間 ※	現状値より減少

※平成28年(2016年)から令和2年(2020年)までの5年間の平均値



重点プロジェクトにおける取組

第2期ビジョンにおける目標(数値)の達成に向け、社会情勢の変化や今後の社会展望、第1期ビジョンの取組実績などを踏まえた重点プロジェクトを設定し、本圏域における広域連携の取組を推進します。

2 重点プロジェクトの推進

第2期ビジョンにおいて、まずは、コロナ禍の影響を受けている地域経済の維持・回復に向けた集中的な対策に取り組めます。

また、第1期ビジョンの取組を通じて深めてきた7市町のつながりのもとで、これまで進めてきた広域連携による観光振興や中小企業支援、移住・定住などの取組を更に深化させていきます。

さらに、デジタル化の急速な進展や人々の暮らし方・働き方への意識の変化など、新しい時代の流れを圏域の発展につなげていくための取組を進めるとともに、圏域の「知の拠点」である大学等の教育機関を、圏域を発展させるイノベーションを共に生み出すパートナーとして捉え、連携を深めていきます。

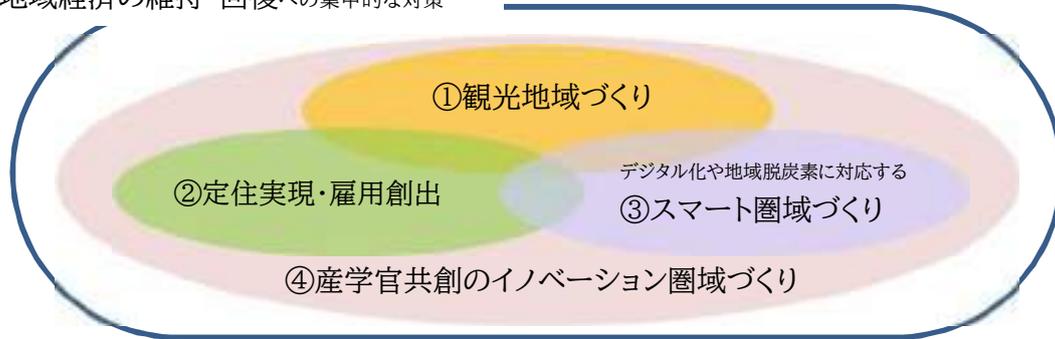
こうしたことから、第2期ビジョンでは、新型コロナウイルス感染症への対策を図りながら、次の4つの重点プロジェクトのもとで、新たな人の流れを呼び込み、圏域の経済循環を図る取組や、質の高い豊かな暮らしの実現に向けた取組を、圏域全体が一丸となって展開することとします。

(1)重点プロジェクト

第2期ビジョンのメインテーマ

「新しい時代の流れを成長につなげる持続可能な圏域づくり」

コロナ禍の影響を受けている
地域経済の維持・回復への集中的な対策



① 観光地域づくり

まずは、コロナ禍の影響を受けている観光に関連する産業分野の元気をいち早く取り戻すための集中的な取組を進めます。その上で、地域資源を活用しながら、各市町の地域住民が誇りを持てる地域づくりと、おもてなしあふれる観光地づくりを一体的に行う「観光地域づくり」を引き続き推進し、住民・来訪者の双方にとって満足度の高い圏域づくりを進めることで、圏域住民の生活利便性を高めつつ、多くの来訪者を呼び込む取組を進めます。

② 定住実現・雇用創出

まずは、コロナ禍の影響を受けている地域経済の維持・回復を図る集中的な取組を進めます。その上で、少子高齢社会の更なる進展を見据え、転出超過の状況に何としても歯止めをかけるため、圏域住民の地元定着を図るとともに、圏域外からの移住・定住を促進します。また、圏域における定住の受け皿となる雇用を守るとともに、新たな雇用を創出する取組を進めます。

③ スマート圏域づくり

コロナ禍を契機として急速に進む社会全体のデジタル化や地域脱炭素、規制緩和などの新たな時代の流れを圏域の発展につなげるため、まず、事業者や住民の負担軽減を図る行政のデジタル化を進めます。また、子育て、ヘルスケア、環境、防災、交通などを始めとした各分野におけるデジタル化の取組や、都市OSの構築などを進め、新たな経済活力の創出と地域課題の解決を図ります。さらに、こうした取組を、とりわけ女性の活躍推進や働き方改革につなげることで、住民が豊かな生活を送れる圏域づくりを進めます。

④ 産学官共創のイノベーション圏域づくり

上記①～③の重点プロジェクトを効果的に推進するため、圏域内の知の拠点である大学等と産業界、行政とが連携体制を構築し、新事業・新サービス等の創出や地域課題の解決を図る取組を進めます。また、圏域における医療・看護・福祉分野を始めとしたあらゆる分野の専門的人材の確保に向けて、圏域内の高等教育機関や専修学校等の学生の地元定着を図る取組を進めます。

上記の方向性のもとでプロジェクトの推進を図りつつ、具体的な取組については、各市町からの提案等を踏まえながら、必要に応じて追加します。

【4つの重点プロジェクトにおける取組】

①「観光地域づくり」の取組

①-1 コロナ禍における集中的な対策

観光関連産業を始めとする多くの産業分野においては、コロナ禍における外出自粛等により、深刻な影響を受けており、今後の先行きは、いまだ見通せない状況にあります。

宿泊業だけでなく、飲食業や農林水産業、輸送、交通など、関連する産業分野の元気をいち早く取り戻し、圏域の雇用と暮らしを守り抜くための集中的な交流人口創出の取組を進めます。

(ア) 国、県における更なる観光需要喚起策の実施に向けた働きかけ

- ・国における GoTo トラベル事業のような需要喚起策の継続的な実施の検討
- ・県における「行こうよ。やまぐちプレミアム宿泊券」や「旅旅(たびたび)やまぐち県民割」のような観光需要喚起策の再度の実施

(イ) 圏域における国、県の観光キャンペーン等に合わせた観光需要取り込み策の展開

- ・GoTo トラベル事業を始めとする国、県の観光キャンペーンに合わせ、各市町の実情に応じたかたちでの誘引策・消費喚起策の検討(宿泊者向けクーポン等)
- ・各市町の取組を圏域として一体的に情報発信を図る

(ウ) 圏域版マイクロツーリズムの取組の展開

- ・山口ゆめ回廊博覧会を通じて築いた観光コンテンツや組織体制などを生かした圏域周遊の促進
(例) まち歩き観光コンテンツ・受入体制の活用、モデルツアーの企画・実施、リアル宝探しゲーム等
- ・圏域内の交流創出につながる各市町の観光・文化施設等の利用促進策の検討
(例) イベント開催時など、期間を限定した圏域在住の子どもの施設入場料の無料化等
- ・圏域内の道の駅等の周遊促進に向けたスタンプラリー等の実施
- ・圏域住民限定のプレミアム宿泊券の発行等の検討 など

①-2 大阪・関西万博開催を契機とした交流人口の回復と広域観光の取組

コロナ禍前の交流人口1,700万人を取り戻すための取組を進めるとともに、第1期ビジョンの目標でもあった欧米豪を中心としたインバウンド誘客に引き続き取り組み、富裕層や長期滞在旅行者の取り込みなど、観光客一人当たり消費額の増加につながる取組を検討します。

(ア) コロナ禍前の交流人口の回復に向けた7市町観光部局による広域観光5カ年計画の推進

- ・7市町の観光部局により作成した広域観光5カ年計画に基づく国の地方創生推進交付金を活用した各市町の既存事業や新規事業における取組の推進

(イ) 令和7年大阪・関西万博開催の前後に合わせた7市町全体としての取組の推進

- ・デスティネーションキャンペーン等の誘致、国や県等のキャンペーン等と連動した交流創出事業の企画・実施

山口県におけるデスティネーションキャンペーンの開催状況

- ・平成13年(7月～9月)「きららのくに 新呼吸。おいでませ山口へ」
- ・平成20年(7月～9月)「はじめてなのに、なつかしい。おいでませ山口へ」
- ・平成29年(9月～12月)「維新の風が誘(いざな)う。おもしろ国 山口」



デスティネーションキャンペーン
オープニングセレモニー(2017年)



デスティネーションキャンペーンと
連動した全国 SL サミット(2017年)



「山口ゆめ回廊博覧会」のレガシーを
活用した連携イベントの開催も検討

【参考：第2期ビジョン期間における段階的な広域観光の取組のイメージ】



①-3 広域交通結節点等を生かした新たな交流の創出

山口宇部空港と新山口駅の両広域交通結節点をビジネス交流等の拠点として、外から新たな人の流れを呼び込み、圏域内の経済循環につなげる取組を推進します。

(ア) (仮称)やまぐちワーケーション 回廊の取組^(※)

※ワーケーションとは、Work(仕事)と Vacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、観光地等の普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ仕事を行うこと。

令和3年8月、山口県は、山口宇部空港内に県全体のワーケーション総合案内施設「YY! GATEWAY」をオープンされ、ワーケーションの情報発信やワーケーションプランのコーディネート等を開始されており、現在、同施設の機能の充実に向けて、市町との連携強化を図られています。



- ・山口県における取組の強化を契機とした山口宇部空港を起点とする新たな交流の創出や移住・定住の促進に向けた圏域全体でのワーケーション誘致の取組推進
- (例) 圏域の自然・景観・歴史・文化などを生かしたワーケーションプランの造成、一体的な情報発信等



原南露天池(美祿市)



焼野海岸(山陽小野田市)



萩城下町(萩市)



津和野カトリック教会・乙女峠マリア聖堂(津和野町)



(イ)(仮称)やまぐちコンベンション回廊の取組

令和3年7月、新山口駅北口にKDDI維新ホールがグランドオープンし、2,000人規模のコンベンションを誘致する体制を整えることができたことで、各市町のコンベンション施設と合わせて、圏域全体で、これまで以上に大規模なコンベンション誘致が可能となっています。

- (例) 渡辺翁記念会館 大集会堂:約1,400人規模(宇部市)
防府市公会堂 大ホール:約1,400人規模(防府市)
山口市民会館 大ホール:約1,500人規模(山口市)



・圏域各市町のコンベンション施設の連携による誘致促進



- ・各施設の連携のもとでの学会等の本会議や分科会等の一体的な誘致の促進
- ・新山口駅周辺において圏域各市町が主体的に賑わいづくり等を行うことが可能となる機能の研究

・コンベンション参加者をターゲットとした企画ツアーの造成等による圏域経済循環の促進

(例)圏域の酒蔵巡りなど共通のテーマによる企画ツアーの造成、山口ゆめ回廊博覧会を通じて造成したまち歩きツアーや体験コンテンツの更なる磨き上げ等



①-4 広域的な MaaS の展開による圏域の周遊促進

バス、タクシー、鉄道などの移動手段をシームレスに利用できる環境を整え、圏域住民の移動の利便性向上を図りつつ、圏域への来訪者がストレスを感じることなく周遊できる二次交通の充実強化を図ります。

(ア)専用アプリ等を活用した圏域における MaaS の基盤づくりの推進

令和2年度から、山口県、山口市、交通・観光関連事業者等の連携により、MaaS専用アプリ「ぶらやま」を活用した乗合タクシーの予約受付や特典付デジタルチケットの販売など、移動手段と多様なサービスを組み合わせた新たなモビリティサービス(MaaS)の構築に向けた実証事業を開始しており、令和3年度からは、更に萩市が参画し、回遊性の向上による観光振興や経済の活性化に向けた実証事業に取り組んでいます。

- ・山口県と連携した MaaS 実証事業への圏域市町の更なる参画の推進
(令和4年度からは、新たに宇部市、美祢市が参画)
- ・他の MaaS の枠組みの活用や MaaS の利用データの連携など、持続可能な交通システムの研究

【参考】JR 西日本が展開する観光型 MaaS「setowa」
鉄道、船舶、バス、タクシーなどの交通機関やホテル、
地域の観光素材をスマホアプリから検索・予約・利用が可能
(令和3年6月22日から山口県全域にサービスエリア拡大)



(イ)交通系ICカードの導入促進

第1期ビジョンでは、圏域内を走るバスへの交通系ICカードの導入促進に取り組んできており、令和6年度までに完了する見込みとなっています。また、JR駅への交通系ICカードの導入については、JR西日本ICOCAの利用エリアが、令和4年3月から、山陽本線の南岩国駅から徳山駅まで拡大され、令和5年春には、徳山駅から下関駅までの区間及び山口線の山口駅と湯田温泉駅に導入される予定となっています。

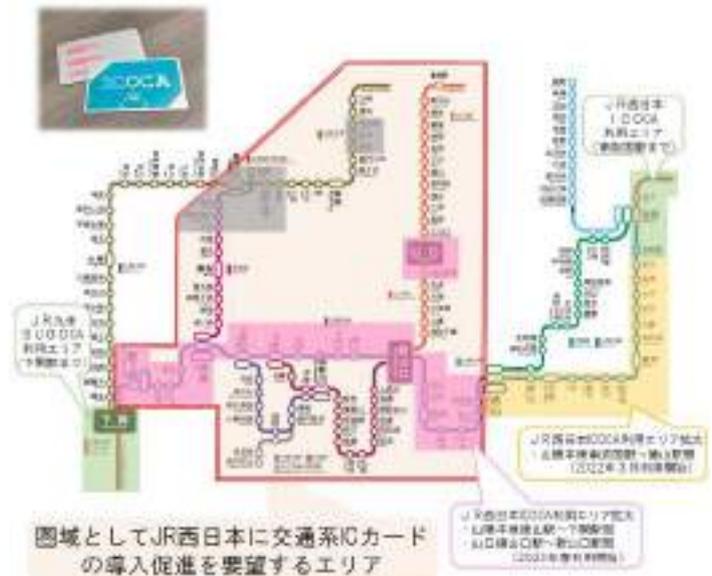
第1期ビジョンにおけるバスへの交通系ICカードの導入に続き、第2期ビジョンでは、圏域におけるJR駅への交通系ICカードの導入を促進していきます。

・圏域各市町のJR駅への交通系ICカードの導入に向けたJR西日本への要望

・鉄道への交通系ICカードの導入に係る補助制度の創設に向けた県への要望

(参考:国におけるICカード導入に対する補助制度)

補助対象事業者:鉄軌道事業者
 補助対象設備 :ICカードの利用を可能とするシステム
 補助率 :1/3



(ウ)MaaS への接続等を見据えた個別の二次交通の充実

バス、タクシー、シェアカー、シェアサイクルなど、各市町の実情に応じた二次交通の充実を図る取組を進める際には、圏域における MaaS の枠組へのつなぎ込みや、予約・決済・利用システム等のデジタル化、共同化等を検討します。



①-5 圏域内交流の更なる促進に向けた取組

公共施設の相互利用に向けた取組や、圏域の子どもたちが相互に交流できる機会の創出、圏域内の移動の利便性向上の取組により、圏域内の交流を促進し、圏域住民の豊かな暮らしを実現する環境づくりを進めます。

(ア) 公共施設の相互利用の促進に向けた取組

- ・図書館を始めとする公共施設利用に必要な利用者登録の更なる広域化や、利用登録データの連携などの研究
- ・圏域住民一律の利用料金設定等の研究(市・町民料金→圏域住民料金)
- ・圏域内の交流創出につながる各市町の観光・文化施設等の利用促進策の検討
(例)イベント開催時など、期間を限定した圏域在住の子どもの施設入場料の無料化等(再掲)

(イ) 圏域の子どもたちが相互に交流できる機会の創出

- ・各市町の自然や歴史、文化芸術の体験学習などを通じた子どもの圏域内交流を図る取組の検討

(ウ) 広域的な MaaS の展開による圏域の周遊促進(再掲)

- ・専用アプリ等を活用した圏域における MaaS の基盤づくりの推進
- ・交通系 IC カードの導入促進
- ・MaaS への接続等を見据えた個別の二次交通の充実

①-6 地域公共交通の維持・確保

圏域内の移動を支える地域公共交通の維持・確保を図るための取組を進め、住民や来訪者にとって満足度の高い圏域づくりを進める。

(ア) 地域公共交通の維持・確保に向けた交通事業者、国、県への働きかけ

- ・交通事業者における鉄道、バス等の路線・便数の維持
- ・国における基幹交通バス路線の維持に係る補助制度の拡充
- ・県における鉄道への交通系 IC カードの導入に係る補助制度の創設(再掲)

(イ) 地域公共交通の維持・確保に向けた利用促進・基盤確保

- ・交通事業者等と連携した公共交通の利用促進策の推進
- ・交通系 IC カードの導入や新たなモビリティサービス(MaaS)の展開等による利便性向上を通じた地域公共交通の利用促進(再掲)
- ・公共交通を担う運転士の持続的な人材の確保に向けた取組の推進